

教区通信

ふくおか

2022(令和4)年3月1日発行

Vol.136

発行

「御同朋の社会をめざす運動」
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

—From tying bonds to great encounters—



▲2022(令和4)年1月26～28日 親鸞聖人報恩講法要(今回もライブ配信いたしました)

P4～P5 親鸞聖人に会うこと —新型コロナ感染症危機の中—

P2 教務所長挨拶

P3 コロナ禍で人生を見つめ直す

P6 親鸞聖人報恩講法要法話

P7 実践運動中央委員会報告

P7 法話「縦の関係に救われる」

P8 行事予定・編集後記

ご挨拶

～新年度に向けて～

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管 野村 宗雄



皆さまには長引くコロナ禍により、もどかしい日々が続き、様々にご苦心ご苦労のことと存じます。年度末を迎え、新年度に向けて主なことについて述べさせていただきます。

諸会議、行事等が遅滞するなか、オンライン機器を充実させ対応しておりますが、当面この状況が続くと予想されます。情報の漏れや遅滞が最小限になるようにいたしたく存じます。これに関連して教区、教堂の情報を内外にお知らせするホームページの利便性の向上を図り新年度よりリニューアルをします。ですので、ご利用いただきますようご案内します。

財政面について、本願寺新報一月一〇日号で報道されましたように、二〇二四年度に見直しされる宗派賦課金の負担基準についての説明、意見聴取が新年度中に見込まれます。教区の賦課金も二〇二四年度の護持口数の見直しに向け「教区護持口数調整委員会」により新年度に調査実施予定です。宗派、教区の重要な財源の賦課金について、公平な負担の実現に向けてご協力をお願いします。

教堂については、昨年の教区会で設置が定められました「福岡教区将来構想検討委員会」に、協議が中断していました別院への変更に關し、あらためて論点を整理し、理解を図ったうえで、協議いただくようお願いしています。

愈々明年、宗祖の誕生を喜び、立教開宗の意義を確かめる親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要をお迎えします。教区の法要・行事は、二〇二四年の五月に若年層が参加できる形で検討を予定し、また各組においても種々企画中と存じますが、私たち一人ひとりにとってのご勝縁となりますよう念願します。

最後に御同朋の社会をめざす運動については、現在の四年計画中二年間がコロナ禍により十分な取り組みができずに過ぎました。しかしできない中にも何ができるかを模索して成果もありました。コロナ禍をそういう機縁と捉え直し、柔軟な対応をしていくことも重要に思われます。自他ともに心豊かに生きることで、できる社会の実現をめざし、新年度もともに歩みを進めたく、よろしくお願い申し上げます。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要

本山本願寺での法要期日

2023 (令和5) 年

第1期	3月29日 (水)	～4月 3日 (月)
第2期	4月10日 (月)	～4月15日 (土)
第3期	4月24日 (月)	～4月29日 (土)
第4期	5月 6日 (土)	～5月11日 (木)
第5期	5月16日 (火)	～5月21日 (日)

福岡教区仏教壮年会連盟

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)研修会

「コロナ禍で人生を見つめ直す」

シニア生活文化研究所 所長 小谷 みどり

「家族に迷惑をかけたくない」という理由で、自分のお葬式やお墓について元氣なうちに考えておこうという方が増えています。朝日新聞社が四年前に実施した世論調査では、「自分の老後を考えたとき、家族は頼りになると思いますか」という質問に対し、「頼りになる」と回答した人は半数を下回っています。

いまや、亡くなる女性の四割以上は九〇歳以上です。子どももかなりの高齢であることが容易に想定できます。これからの時代は、「老いては子に従え」ではなく、子どもがいても老後は安心ではなくなっているのです。

一方、子どもがいても、別々に暮らすことが当たり前になり、三世帯同居をする高齢者は全国で一割もおらず、一人暮らしをする高齢者が急増しています。政府の統計では、一人暮らしの男性高齢者の六人に一人は、二週間のうち一度も会話をしていません。どんな人も自立できなくなったら、誰かの手を借りなければなりません。しかし、家族がいても高齢で頼れない人、別居する子どもに迷惑をかけたくないと考える人、あるいは頼れる家族や親

族がそもそもいない人たちの急増で、自立できなくなった場合、家族以外の誰に頼ればいいのかという問題が昨今、クローズアップされています。

そのひとつに、引き取り手のない遺骨がここ二十年間、各自治体で急増していることが挙げられます。しかも身元が分からない行旅死亡ではなく、多くの遺骨は、身元が判明している点が、今の傾向です。

血縁、親族ネットワークだけでは古い、病、死を永続的に支え続けることは不可能なところまで、

日本の社会は変容しています。どんな人も安心して人生を全うできる社会の実現には、地縁や血縁にこだわらない、緩やかな関係性を元氣なうちに築いておくことも大切です。

講演の内容は

教区YouTubeチャンネルにて公開中です。

2021(令和3)年度福岡教区仏教壮年「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)研修会

コロナ禍で人生を見つめ直す

小谷 みどり さん

一般社団法人シニア生活文化研究所 代表理事

会場:本願寺福岡教堂礼拝堂
日時:2021(令和3)年10月13日14時より

2021(令和3)年度 福岡教区仏教壮年「御同朋の社会を目指す運動」実践運動)研修会

231 回視聴・2021/10/22

浄土真宗本願寺派 福岡教区・本願寺福岡教堂
チャンネル登録者数 299人

※講演者の講師自己紹介で音声が入っている箇所、途中映像の乱れがございます。予めご了承ください。

テーマ:「コロナ禍で人生を見つめ直す」
講師:小谷みどりさん(一般社団法人シニア生活文化研究所 代表理事)
主催:福岡教区仏教壮年会連盟

親鸞聖人に遇うこと ― 新型コロナ感染症危機の中 ―

夜須組 眞淨寺 三好 慶祐

NHKの番組で「100分de名著」をご存知でしょうか。今からちょうど十年前の二〇一二年に鴨長明の『方丈記』が取り上げられ放送されました。それは、『方丈記』が成立して八百年の記念の年ということもありましたが、二〇一一年に起こった東日本大震災という未曾有の危機に直面した日本社会に生きる人々によって、あらためて注目されたという背景があったようです。

『方丈記』というと、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という冒頭の書き出しから、世の無常を綴った随筆だと思っただけの方が多いようです。私もそのひとりでした。しかし、この番組で解説をしてくださった京都産業大学文化学部教授の小林一彦さんは、哲学的な無常観ではなく、はかない世の中のあるようを説明するために「世の不思議」、つまり平安京を襲った五つの災厄が、まるでルポルタージュのように生き生きと、迫真の描写でつづられていると仰います。ルポルタージュとはつまり、現地報告ということです。私たちが知り得ることのできない情報を、現地に赴き伝えてくださることで、私たちはその事実を知ることができます。つまり、親鸞聖人の生きられた時代を、『方丈記』の「報告」によって私たちは知ることができるのです。そしてそれは、「鴨長明の

“つぶやき”、あるいは“ぼやき”でもあり、現代の私たちから見れば、まるでツイッター文学のよう”だとも解説されています。

親鸞聖人が得度された養和元(一一八一)年には、治承・養和の大飢饉が起こっています。『方丈記』には、干ばつや豪雨といった自然災害により穀物が全く実らず、翌年には疫病が流行り身分の低い人から命を落としていく様子が描かれています。略奪や強盗が頻発していて、仏像までもが「薪」として盗まれていることも描かれています。しかもこの時代、源氏と平家の争いが激化し、都への物流が止められるという“戦争災害”によって、事態は益々深刻になっています。聖人が得度の時に詠まれた「明日ありと 思う心の仇桜 夜半に嵐の 吹かぬものは」という歌は、自分の命を桜の花に喩え「明日自分の命があるかどうか分からない」と言わしめた背景に、このような眼前の社会の現実が九歳の聖人をして詠ませたと受けとめることができるでしょう。

二〇二一年九月、朝日新聞の『論座』に「全国生活者意識調査『コロナ禍と仏事』から見えてきた仏教の未来」という記事が掲載されました。コロナ禍を受けて葬儀や法事に対する意識がどのように変化したかについて株式会社寺院デザインが調査を行い、特に法事などの儀式をインターネット経由で行うオンライン法要に注目したアンケートが行われました。記事は、その調査を基に分析した結果、予想に反してオンライン反対派が多く、しかも前年に比べて増えたというものでした。(オンライン中継で法事をするのは、ちょっと違う気がする)という反対派は三十六・〇%だったのに対し、(こんな状況なので、オンライン中継の法事はいいと思う)という賛成派は十一・三%に過ぎなかったそうです。しかも、二〇二〇年

の調査と比べて大きく変化したのは、反対派のへちよつと違う気がする。が二十一・〇%から十五・〇ポイントもアップしたことでした。もちろん、オンラインで法事や葬儀に参列できることの有り難さを感じている人は多くいるのですが、特に彼岸法要やお盆法要などの寺院主催の法要のオンライン配信はあまり受け入れられていない現実が明らかになっていました。私たちは、人と人が直接であうことで感じるあたたかさや、その空間に身を置くことの厳かさ、大切さを求めているのかもしれない。私たちが生活する現代は、自然災害や疫病などによる混乱した社会状況が、親鸞聖人が生きられた時代に酷似していると言われます。さらに、原発事故や災害対応、新型コロナウイルスの問題で顕かになった政治の問題が、社会の分断を生み、対立を引き起こし、人々を傷つけていくすがたもまた同じです。そして常に、犠牲を強いられるのは社会的弱者であることも

の調査と比べて大きく変化したのは、反対派のへちよつと違う気がする。が二十一・〇%から十五・〇ポイントもアップしたことでした。もちろん、オンラインで法事や葬儀に参列できることの有り難さを感じている人は多くいるのですが、特に彼岸法要やお盆法要な

です。新型コロナウイルス感染症の混乱するこの社会に生きる私たちに、八〇〇年前の混乱の時代を生き抜かれ、真実の教えに出遇っていかれた親鸞聖人のおこころが大切なことを呼びかけ続けてくださっています。

社会情勢

親鸞聖人略年表

事項	年号	西暦	事項
保元の乱	保元元	1156	
平治の乱	平治元	1159	
	承安3	1173	京都の日野の地にご誕生
大地震（奈良） 安元の大火（京都）	治承元 (安元3)	1177	
地震（京都）	治承3	1179	
治承の辻風（京都） 福原遷都 源頼朝・義仲挙兵	治承4	1180	
養和の大飢饉	養和元	1181	慈円について得度され、比叡山で修行
平氏都落ち	寿永元	1183	
地震（京都）	元暦元	1184	
平氏滅亡 元暦の大地震（京都、滋賀）	文治元 (元暦2)	1185	
大地震（京都）	文治3	1187	
	建仁元	1201	比叡山を下り六角堂に参籠 法然聖人の専修念仏に帰す
	元久2	1205	法然聖人から『選択集』を付属され、 影像を図画する
	承元元	1207	承元の法難によって 越後（新潟県）に流罪
大地震（鎌倉）	建保元	1213	
	建保2	1214	佐貫で三部経千部読誦 常陸（茨城県）へ入り関東を教化
	元仁元	1224	このころ『教行信証』を撰述
寛喜の大飢饉	寛喜2	1230	
	嘉禎元	1235	このころ帰洛
大地震（鎌倉）	仁治2	1241	
大地震（鎌倉）	管絃3	1245	
	宝治2	1248	『浄土和讃』『高僧和讃』を著す
大地震（京都）	建長6	1254	
大地震（鎌倉）	正嘉元	1257	
正嘉・正元の大飢饉	正嘉2	1258	『正像末和讃』を著す
	弘長2	1262	ご往生 (11月28日、現在の暦で1263年1月16日)

親鸞聖人報恩講法要法話

コロナ禍で親鸞聖人を慕う

本願寺派布教使 兵庫教区 神戸湊組 高松寺 谷川 弘顕

もう二年以上コロナ禍にあります。「禍」とは「わざわざ」のことです。私たちにとっては何とも煩わしく厄介で、日常の生活も脅かされ奪い取られ、挙句には生命まで危うくしています。

親鸞聖人の生きられた鎌倉時代はおよそ五十回も改元されたように、天災や感染症、大飢饉がありました。もちろん、今のようない化学的な知識もなく、天変地異や疫病を天地の神々(風神・雷神・疫病神)のはたらきと捉えていました。その神々に恐れおののき、平伏し加護を願うことが当時の常識的な仏教と受け止められていました。その時代にあつた親鸞聖人は晩年に、

かなしきかなやこのごろの

和国の道俗みなともに

仏教の威儀をもととして

天地の鬼神を尊敬す(『正像末和讃』・『註釈版聖典』六一八頁)と嘆かれています。今の私たちの科学的な立場からの否定ではなく、仏教の立場から否定されたのです。

お釈迦様が示された「諸行無常」は時代を貫く理です。総てが移ろいであり、一寸先は闇であり、不確実なものです。今ここに

この私は無常を生きる外はありません。無常を肉体の衰えや季節の移ろい、あの頃はあの時と受け止めるような感傷的・詠嘆的な無常感だけではなく、むしろ仏教においては無常観なのです。「観」は智慧を表す言葉です。私たちは頼りにならないものを一生懸命握りしめ、争い、そして苦しみに沈まなければならないことが絶えずあります。無常観に立つということは不確かな無常の事実を生きる私に、本当に確かなものを尋ねるということであり、智慧を無常観ということで示されるのです。

親鸞聖人を慕うということは、どんなことがわが身に起こっても、不安に揺れ動く今ここに私の口から南無阿弥陀仏のお念仏が出てくることであり、阿弥陀さまが私のおぞましい生命にぬくもりを与えずにはおられないと抱き留めてくださってあることなのです。コロナ禍にあつて改めてお念仏の中に歩ませていただく喜びをいた



報恩講法要のご法話については
教区You Tubeチャンネルにて
3日間6座すべて公開中です。

御同朋の社会をめざす運動(実践運動)

中央委員会報告

中央委員・西嘉穂組 西蓮寺 渡邊 慈海

二〇二二(令和四)年二月十八日に、ZOOMを用いたりモート形式で、御同朋の社会をめざす運動(実践運動)中央委員会が開催されました。

まずは主に重点プロジェクト〈貧困の克服に向けて〜Dāna for World Peace〜子どもたちを育むために〉の報告が行われ、「子どもたちの笑顔のために募金」で集まったお金についての詳細が報告されました。カトマンズ本願寺を通してネパールの学校支援や、国内の子ども食堂・学習支援などへの支援が進んでいます。

次に、二〇二一(令和三)年五月に惹起した富山教区での過去帳開示事件について、その後の詳細な対応や報告が行われました。委員からの指摘をうけて、過去帳またはそれに類する帳簿の開示は、開示した事自体が「お寺に行けば過去帳を見せてもらえる」という認識を社会に広めかねない責任問題であること、また、身元調査などで差別を受けて苦しんできた人にとって耐え難い痛みを与え、差別を温存助長する行為であることが、改めて確認されました。

今回のような問題の背景に人権啓発推進僧侶研修会への参加率の低さがあり、そのことが過去の差別問題に対する反省と学びもいっかり継承できていない、という課題になっています。宗門内僧侶の意識が問われます。

後半は、各教区の取り組みの中からいくつか抜粋して紹介がなされました。コロナ禍の中、貧困問題やSDGsに取り組む工夫が生まれているようですが、今後の運動展開についての具体的な方針は示されませんでした。

今回で丸二年間、リモートでの中央委員会ということになりました。対面で集まることの難しいコロナ禍の中やむを得ない形式であるとは言え、協議の時間が大幅に少なくなっていることは、今後の運動の確認・推進においても大きな懸念材料であると感じます。

一言 法話

「縦の関係に救われる」

嘉麻組 光隆寺 原 遵由

世界には色々な宗教があります。世界三大宗教とされる、仏教・キリスト教・イスラム教。教えは違えど、相通じる部分があると感じる時があります。

私は学者ではないので、専門的な証明には及びませんが、経験からそう感じています。私は臨床宗教師として病院で活動しており、患者さんやその家族の想いや考え方、価値観を聞かせていただいています。いろんな宗教を信仰している方に多く出あひ、時には仏教以外の宗教者と交流することもあります。

他宗教と相通じる部分はいくつかあるでしょうが、「人間同士だけでは持ち得ない、『縦の関係』が存在すること」がその一つと感じます。ここでいう『縦』というのは上下関係などではなく、神仏と私(人間)のような関係のことです。

人間同士の『横の関係』では、いのちの価値をどう決めているでしょうか。誰かより、優れている・劣っている。ほかより、価値がある・無価値である。そんな思考を繰り返しながら日々を送っています。私のいのち、相手のいのち、人だけではなく動物やものまで、比較するのが本当に得意です。

うまくいつているときは気になりませんが、ずっと順調に進まないのが人生です。その思考だけで生活するのはとても息苦しい。だからこそ、人間の歴史が宗教とともに発展したのではないかと感じます。

仏や神との『縦の関係』があることで、比較という世界から離れることができます。本来、私たちは一人ひとりにかけがえない歩みがあり、他の誰にも代えられない、いのちであることに気付かされます。誰かと比較して生きるといふ、『横』でいのちを見ることが全てではないよと長い年月をかけて神仏が教えてくださっているのかもしれない。

たとえ私が比較することから離れられなくとも、常に「かけがえない、誰とも代えられないのちだよ」と呼びかけてくださる仏さま。私たちにはそのような心強い『縦の関係』がいてくださることを改めて有り難いと感じることであります。

福岡教区教務所の予定表

月	日	曜	時	内 容
3月	17	木	10:00	ビハーラ福岡 役員会 / 10:00 仏教婦人会連盟 支部長会
			13:00	門徒推進員連絡協議会 役員会 / 14:00 ビハーラ・ライン・福岡 例会
	22	火	15:00	臨時閉堂
	24	木	13:00	門徒推進員連絡協議会 役員会
	25	金	14:00	実践運動 常任委員会
	28	月	14:00	定期教区会
	30	水	13:00	門徒推進員代表者協議会 (WEB) / 少年連盟中央研修会 (京都、～31日迄)
4月	5	火	13:00	少年連盟 監査
	6	水	14:00	ビハーラ福岡 例会
	7	木	15:00	スカウト指導者会 監査
	11	月	15:00	スカウト指導者会 総会
	12	火	14:00	保育連盟 監査 / 15:00 保育連盟 役員会
	13	水	14:00	ビハーラ・ライン・福岡 例会
	14	木	13:30	親鸞聖人讃仰講座 (～15日迄) / 16:00 仏教青年連盟 監査
	16	土		門徒推進員連絡協議会 総会
	18	火	15:00	組長会
	19	金	13:00	ビハーラ福岡 役員会
	22	火	15:00	時局問題対策協議会 総会
	25	水	9:30	仏教婦人会総連盟 総会
5月	26	月	13:30	寺族婦人会連盟 総会
	8	日	19:00	仏教青年連盟 役員会
	9	月		福岡矯正管区教誨師連盟 理事会
	10	火	10:00	ビハーラ福岡 役員会
	11	水		時局問題対策協議会 公開講座
	14	土	13:30	親鸞聖人讃仰講座 (～15日迄)
	15	日	19:00	仏教青年連盟 定例会
	18	水	13:00	ビハーラ福岡 例会・総会
6月	23	月		青年布教使の会 総会
	24	火		福岡教誨師会 理事会
	2	木		福岡教誨師会 総会
	3	金	18:00	仏教青年連盟 総会
	13	月	15:00	少年連盟 総会
	14	火	13:30	親鸞聖人讃仰講座 (～15日迄)
	21	火		組長会
	23	木		布教団 総会

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、予定は予告なしに変更する場合がございます。時間が記入されていない部分は未定です。

各行事開催の最新の状況については、主催者へお問い合わせください。

ご来堂の折は必ずマスクをご持参・ご着用ください。

各種行事に際しましては体温測定も実施いたします。

編集
後記

今年も早いもので3ヶ月がたちました。寒い冬が過ぎ、春の訪れにほっこりしますが、世界を見ますと戦争という悲しい状況があります。世を願いつつ、我が身の生き方を整えていきたいものです。

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 野村 宗雄

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2

電話:092(771)9081